

福知山市外郭団体三次評価について

所管部署：文化・スポーツ推進課

所管団体：福知山市文化協会

【講評】

- ・市が考える施策の中で文化協会に求める内容が明確になっておらず数値化もできていないので、その評価がでてこない。外郭団体の見直しの時に「運営費は出しません。事業に対して市は支援する」という話であったので相反することになったかもしれないが、そこも見直ししながら進めていく必要を感じた。
- ・市の文化施策の方向性と団体の活動目的が合致しているかが不明なので、その整理した上で評価をして欲しい。

1 市の二次評価の内容や外郭団体への関与のあり方について、改善策やお気づきの点など

- ・評価するための根拠が明確になっていない。(市が求める文協の役割：「誰(どのような市民)を対象に、何を目的(目標)とした事業や運営を求めているのか」を数値化し、その結果、対象者や目的それぞれに達成度合いを測る必要があるのではないか。
- ・会員数の減少を判断するのではなく、裾野を広げることを目標にするなら、新団体や分野に声かけをするなどの活動を評価していくことが必要ではないか。
- ・公益法人の税制上のメリットについて、寄付を評価基準にするのは難しいと考える。本来の公益のメリットは遥かに多いものであるが、これに言及されていない。公益制度を理解した上での評価をすべきではないか。

2 団体が作成する中期経営計画について、市及び外郭団体で確認すべき点や現在の計画の改善点についてお気づきの点など

- ・合目的性の目標数値の精査
- ・団体数の減少、年齢層の偏りがどうして課題なのかを再精査
- ・8年度までの経営スケジュールを設定すべきではないか(事業、財源、人員を含めた計画)

3 上記1、2に対する所管部署の対応方針

- ・団体の事務局機能の強化を図るため、令和6年度から公益財団法人としてのメリットにはどのようなものがあるか、税制面や対外的な優遇制度を再度確認する。また、法的な面から有利になる制度を見落としていないか公益制度の理解を図る。
- ・主催事業である市展や合唱祭の運営を段階的に市から移行し、運営事務局の事務体制の強化を図る。
- ・経営計画は引き続き8年度まで内容を継続し、検証を行っていく。また、次回の経営計画に向けてより現実的な数値化が図れるよう課題を把握していく。